大田市 地震防災マップ

ゆれやすさマップ

東部版

このマップは、大規模地震が発生した場合の「ゆれやすさ（震度）」について理解を深めていただくことにより、住宅の耐震診断や改修などの地震対策に備えていただくものです。「ゆれやすさマップの活用方法」をご覧いただき、ご活用ください。

ゆれやすさマップについて

解　　説：ゆれやすさマップは、大田市西南方の地震、浜田市沖合の地震、全国どこでも起こりうる直下の地震、の3つの地震の予測震度を重ね合わせ、最大となる震度を示したものです。

ゆれやすさの特徴：重ね合わせた結果、大田市西南方の地震とどこにでも起こりうる直下の地震の震度が最大となる地域が多い。また、地盤の良い地域では、震度5強が予測され、一部では震度７に達する地域もあります。

ゆれやすさマップの活用方法

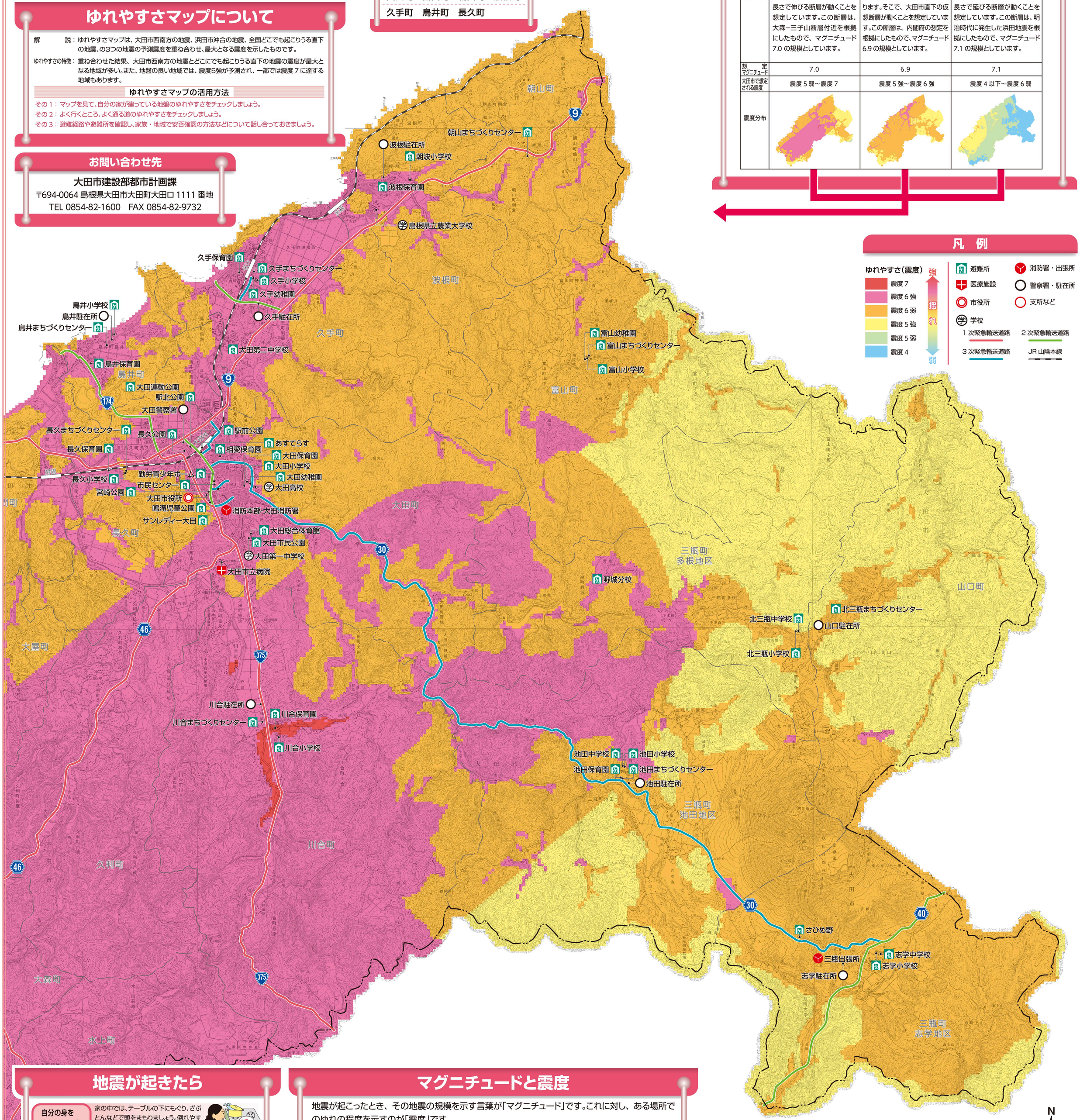
その１：マップを見て、自分の家が建っている地盤のゆれやすさをチェックしましょう。
その２：よく行くところ、よく通る道のゆれやすさをチェックしましょう。
その３：避難経路や避難所を確認し、家族・地域で安否確認の方法などについて話し合っておきましょう。

お問い合わせ先

大田市建設部都市計画課
〒694-0064 島根県大田市大田町大田ロ 1111 番地
TEL 0854-82-1600　FAX 0854-82-9732

町名・地区名

大田町　川合町
三瓶町（池田地区、志学地区、多根地区）
山口町　富山町　朝山町　波根町
久手町　鳥井町　長久町



ゆれやすさマップの作成方法

このマップの作成にあたっては、おおよそ次のような手順で、震度（ゆれの大きさ）を予測しています。

設　定　大田市域に影響の大きいと考えられる地震を選び、震源となる断層の規模や位置、形状などの情報を設定します。

計　算　それぞれの地震について、規模や震源となる断層までの距離とゆれの強さの関係があることを用いて、「地表面付近の揺れの大きさ」を計算します。

想定地震	大田市西南方の地震	全国どこでも起こりうる直下の地震	浜田市沖合の地震
地震の概要	大田市西南方の地震は、大田市中央部から西方に約 20km の長さで伸びる断層が動くことを想定しています。この断層は、大森−三子山断層付近を根拠にしたもので、マグニチュード 7.0 の規模としています。	まだ確認されていない活断層が地下に潜在している可能性があります。そこで、大田市直下の仮想断層が動くことを想定しています。この断層は、内閣府の想定を根拠にしたもので、マグニチュード 6.9 の規模としています。	浜田市沖合の地震は、浜田市沖合に海岸と平行に約 23km の長さで延びる断層が動くことを想定しています。この断層は、明治時代に発生した浜田地震を根拠にしたもので、マグニチュード 7.1 の規模としています。
想定マグニチュード	7.0	6.9	7.1
大田市で想定される震度	震度５弱～震度７	震度５強～震度６強	震度４以下～震度６弱
震度分布			

凡　例

ゆれやすさ（震度）
- 震度７
- 震度６強
- 震度６弱
- 震度５強
- 震度５弱
- 震度４

強 ↑ 揺れ ↓ 弱

- 避難所
- 医療施設
- 市役所
- 学校
- 消防署・出張所
- 警察署・駐在所
- 支所など
- １次緊急輸送道路
- ２次緊急輸送道路
- ３次緊急輸送道路
- JR 山陰本線

地震が起きたら

自分の身をまもりましょう　家の中では、テーブルの下にもぐり、ざぶとんなどで頭をまもりましょう。倒れやすい家具のそばからはなれましょう。

火を消しましょう　地震の後の火災を防ぐために火を消しましょう。

窓をあけましょう　地震で建物がゆがむと、戸があかなくなります。逃げ道を確保するために戸や窓を開けましょう。

家族の安否を確認しましょう　家族の安否が確認できたら、となり近所の人の安全も確認して助け合いましょう。

避難前に確認しましょう　避難する前には電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めましょう。

正しい情報を聞きましょう　災害情報、被害情報を聞くことができるように、携帯ラジオを備えておきましょう。

マグニチュードと震度

地震が起こったとき、その地震の規模を示す言葉が「マグニチュード」です。これに対し、ある場所でのゆれの程度を示すのが「震度」です。
震度の決め方は国によって異なり、わが国では気象庁が定めた震度階級によって震度を表しています。

震度階級表

震度４

ほとんどの人が驚く。電灯などが大きく揺れ、座りの悪い置物が倒れたりする。

震度５弱

大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。棚の食器類や本が落ちることがある。

震度５強

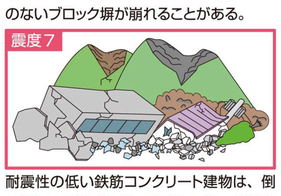
物につかまらないと歩く事が難しい。棚の食器類や本で落ちるものが多くなる。補強のないブロック塀が崩れることがある。

震度６弱

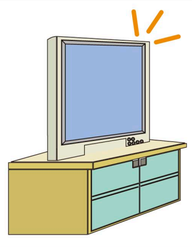
立っている事が困難になる。耐震性の低い木造建築物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。

震度６強

這わないと動くことができない。耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが多くなる。

震度７

耐震性の低い鉄筋コンクリート建物は、倒れるものが多くなる。耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。

緊急地震速報



緊急地震速報とは地震が発生したことをすばやく検知し、地震の規模の推定及び伝送を瞬時に行うことにより、地震による強い揺れが到達するよりも早く、事前に大きな揺れが来ることをお知らせするものです。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000（地図画像）を複製したものである。（承認番号 平 21 業複、第 602 号）